平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町三丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍増
一部定價金十錢送料五厘

河の音

さかだち

夕空の輝き失せて暮れて行き
河の音靜かな夜のひとりごと
自動車も客引なする社會なり
對岸の火とは思へぬ排日貨
道の爲め誓ひの淚にむせぶなり

再び肺結核の豫防に付て〔一〕

湯本町 醫師 片岡鎌三郎

1 潜在結核
2 已に羅病せる者
3 虛弱体と自覺せる者
4 性慾結婚に迷へる者
5 兒童敎育上の參考
6 一家に發病者ある時

此等の問題を、正當に理解し、所理し、徒らに煩悶憂苦の途を、解て上げたひと思ふ、元より私說でない、內外大家の說を參酌し、現代結核病の最新智識を網羅して書くのである。

『肺結核』『黴毒』『トラホーム』は三大國民病である肺結核は文明病『トラホーム』は野蕃病で、東洋獨有と云つてもよい。西洋には極めて少ない、彼等は東洋人は不攝生だからだと云つてある、何と云はれても、辯解の辭が無い、日本や支那朝鮮に極めて多い、壯丁檢査で福島縣は、百人中十六人のトラホームである。

肺病は文明病で、文明の進む所、本病の隨伴は免れない、昔から自惚れど、カサケの無い者はないと、けれども梅毒は、思ふ程普遍的でない、己惚れと結核の無い者はない、眞に穿つた掛値なしの言である。

結核は人類普遍的病で、文明民族で、殆ど全部、結核の感染を受けない者はないと見做されてある、けれども感染を受けた全部が、肺結核病者ではない、感染率は百分中九十八人と云はれてある、而も夫れで發病者が至て少ないと云ふ事は、人類至大の幸福である、若し夫れ感染全部が、肺病人となれば、人類は早晩結核菌の爲めに、根絕しなくてはならぬ、原榮先生は結核菌のみの感染では肺結核病は起らないと。夫れは各個人の先天的、後天的、抵抗力と結核菌の活動强弱に因るのだ。

だから『ピルケイ』反應と云つて、皮膚にツベルクリンを植付て、結核反應を見る法だが、昔は大層診斷的價値を大げさに信じたものだ今日では、其の反應ないものは殆ど無いと云はれてある、夫れに『ツベルクリン』の反應は、潛在結核に反應あるが、活動結核には反應無いか、或はあるけれども直に消へて見逃す事が多い此の反應に驚かされて、泣たり悶へたりする必要は無い、餘り馬鹿氣てるから付け加へて置く。

然し感染から發病迄は、一二年五年十年の千差萬別の行程がある、已に醫者から明かに、肺結核と診斷される頃は、已に一程度の限界を超へてある、凡そ何病でも一程度の限界を越へた病態即病膏肓に入りては、醫藥も神藥も及ぶ所でない、診に嫩にして摘む、已に却火の前に一桶の水、何の益にたつか、去れば多くの肺病者は、醫藥も馱目だ、肺病に藥は無いと、自らきめて、遂に自暴自棄の捨鉢的行爲をなす、暴惡獰猛の叢が出來て、國家的にも危險な人となるのがある、眞に長嘆の至りである。

總じて治病の効否は、初期結核だから、早期診斷と一般世人が、結核を相當理解する事は、治病上にも、豫防上にも、將社會的にも、敎育上にも、經濟的にも又思想上に迄、重大關係を持つ本問題であるから、憂世の士君子は、尙更社會問題に着眼せらるゝ人々は、是非一讀の勞を惜まず讀んで貰ひたい、而し結核の理解を世上一般に普及したいと思ふ、今說かんとする所、極めて粗雜であるが、根本要義は解得し、枝葉末節は各人の研究と實驗を待つのみ。

潛在結核の徵候は、多種多樣、中々補捉する事は出來ないが、大体から云つて見れば、彼の『レントゲン』診斷だが、あれは極めて薄弱で、餘り信用出來ない、レントゲンで映寫して、驚かされない樣、ほんのこけおどしだと、諸大家は明言して居る、故に肺尖カタールだとか、肺結核第何期などでだらめは、一から十迄眞に受けて、憂心快々措く能はずなど、餘りの誤解である、只參考位にはなるだろう、寧ろ治療的價値があると云はれてある。

青年期の神經衰弱、肋膜炎腹膜炎の大部分は、初期結核と見做さる、過勞症とか胃腸衰弱、生殖器の慢性病とか、風引き易いとか、發汗し易い、神經は過敏性、怒り易い、泣き笑ひが激發する鬱憂になる、故なく食慾が不進、体重は減退する尤も体重は十分の一の減退位は生理的にもある事實だが、何の故なく顏面蒼白、年が年中快濶の氣分が無い、不平だら〳〵、怠け易く、陰鬱で僅かに胸痛があり、咳嗽がある位で、肺部の故障など醫者が見ても中々わかるものでないのが常だ、一見健康人だと、自他共に許してる者の中に約百人中、三十人は狹小な、活動性結核病者であると云ふ結論になつてる、元來結核は無熱であるが、局所的にたとひ小部分でも、犯さるゝば熱が出るのが常であるから、婦人の月經前の熱がたとひ僅かに三十七度三四分五分位あるのは、余程注意を要する、子宮が惡るい治療したら却て惡くなつたなどは、餘程結核を注意しなくてはならぬ、夫れから潛在結核は多く肉食を嫌ふを常とする、青年期に多く助膜尖を以て初めるが、中年期は直に肺結核として初まる、結核性病人は、多く疲勞し易いから、安靜か睡眠後の元氣恢復した時に、却て食氣が進むものである要するに結核病の初期は肉体的にも精神的にも疲勞困憊の感を起すから、斯る病狀の人は肺結核の初期でないかと目標を置くが肝要だ

讀者の聲

街上の遊戯を警しむ

伸び樣とする子供心は厭へ樣としてもおさへる事は出來ない、子供は危險を知らぬ、すべてをして遊戯化して喜々として居るのだ。

少年二三人の出會つたところは直ちに其處が運動場と化してしまう。路上と云はず街上と云はず、自轉車飛び、自動車の疾驅するをも知らざるが如く無心に、戯れて、幾度か行人をしてハラ〳〵させる。

殊に自轉車にて急用を辨せんとする時、足もとの危しげな小さい子供の勇敢にも右往左往傍若無人の態には思はず膽を冷す事は何人も經驗するであらう、むしろ危險に馴れて居るのかも知れぬが、此の危險な行動をも顧みない親達の不注意を責めるのだ。

可弱い幼童を生存競爭の戰場にも等しい街上に放つて示然とは、實に人間味を有するものとは思へぬ、我子を愛するならば彼等の前に危險なからしめよ、即ち彼等の爲めに家に一坪の庭を與へ、町には小遊戯場を各所に設けるのだ。あの塵埃に充つる街上より一歩離れた遊戯場を與へたならば如何に兒童保健衛生上大なる効果あるか知れぬ。

眼前の事務に齷齪たるよりも將來の國家を形成する小國民の爲めにも一考を煩されては如何であらう、敢えて當事者諸氏に申し上げる。（日光生投）

音信交換

拜啓

其後の御無音を謝し奉り候扨て今般は平新報御送附被下誠に難有く深謝奉り候御陰を以て鄕里の狀態を親しく伺ひ知る事を得て誠に嬉しく存じ候特に二八會の存在と會員諸君の御樣子を詳かに知るを得て誠に悅しく感じ候學生時代より至誠至公の熱血男兒として知られた貴兄が年と共に鄕里の爲又邦家の爲益々御奮鬪なさるゝ事は誠に慶賀に耐えず候何卒今後共益々御活動あらん事を遥かに山東省の一角より御祈り申上候　匆々

一月十七日
於靑島　柳内穎一
山野邊庄吉樣

因みに柳内氏の居所は支那靑島市外四方庄　内外綿會社內であつて小名濱出身磐中同窓二八會友である。

話の耳

平町長は本月にて滿期改選となる、伏見氏にして自ら勇退せぬ限り以前上下級の關係あつた青沼氏がその席に直る如き事はあるまじく、又候補者の一人たる水野氏も月級の多い磐炭の方を辭めて面倒な自治行政に入るの勇氣もあるまいから結局は伏見氏の重任と落ちつくならんも要は二十九頭現町議の考い一つである、此際市制準備を控ねての平町民如何となす、引いて四月は佐藤助役の滿期改選これが問題だテ。

×

玉川村長も永井氏滿期となりそれが改選を行つた結果現議員十一名中永井億彌氏を推すもの六名、鈴木平九郎氏を選ぶもの五名で永井氏三期力むる事となり、鈴木氏を推した五名に連れての村民は不納同盟をやらかした、そこで强制執行をかけられ去る日の村會で丹野七太郎、同秀治の兩氏は議員失格に決議されたとの事である、不納同盟等と拙い事をやるものだ。

×

植田町長佐川龜太郎氏は老体その席に堪えざるとかにて辭表を出して居る初めから老体を推して居つたのじやないか、後任問題で又復植田町會はモメる事であらふ、紛爭のため自治の運用を阻む事は何處の町村も憂ふべき事である。

×

中野浩忠氏を社長とする磐城海岸軌道會社は連帶運輸問題で內爭生じ支配人丹野寬平氏は辭めさせられ目下遠藤俊一郎氏が代つて居るとかである。

四ッ倉郵便局長 菅波富太郎

佳月古流 投入生花、盛花自然
裁縫敎授 坂本塾舍 平町一町目

朝鮮全北長水邑内 湯原亮夫

品川白煉瓦會社 洲川愛造 湯本町

植田物産會社 山崎登 植田町

土木請負業 中山組 中山吉之助 植田町

植田郵便局長 馬上守一

植田消防組頭 坂本龜太郎

磐東銀行 金成金三 村松義節

平町新川町 外科 產婦人科 木村醫院 電話一六四番

鹿島村會議員 江尻寅治郎

磐城共濟病院組織
內科 小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波陸
副院長 醫學士 五十嵐雄一
內科部長 中西林[illegible]
外科 專門（內臟外科 整形外科 レントゲン科）
外科部長 醫學士 氏家懿介
手術毎日曜 醫學博士 鈴木退[illegible]
產婦人科 女子泌尿科
產婦人科部長 醫學士 五十嵐雄一
レントゲン科
顧問 醫學博士 川添正道
X光線科
主任 醫學博士 難波陸
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院 主事 賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
磐城共濟會 平町 電話六四一番

防寒具の御用意は！
トンビ 九、〇〇ヨリ
オーバ 七、〇〇ヨリ
モヂリ 四、五〇ヨリ
其他各種豊富着荷
なかや洋服店 平町貳丁目（電二〇三）

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目 關內藥舖 藥劑師 關內榮助 電話四〇番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖 平町二丁目 電話長三番

內科 外科 一般診療
片岡醫院 片岡鎌三郎 湯本町驛前

森合齒科醫院 森合芳男 植田町

X光線科 [illegible]醫院 平町南町 電話二二九番

內科、小兒科、皮尿科 藤沼醫院 平町紺屋町 電話五〇七番

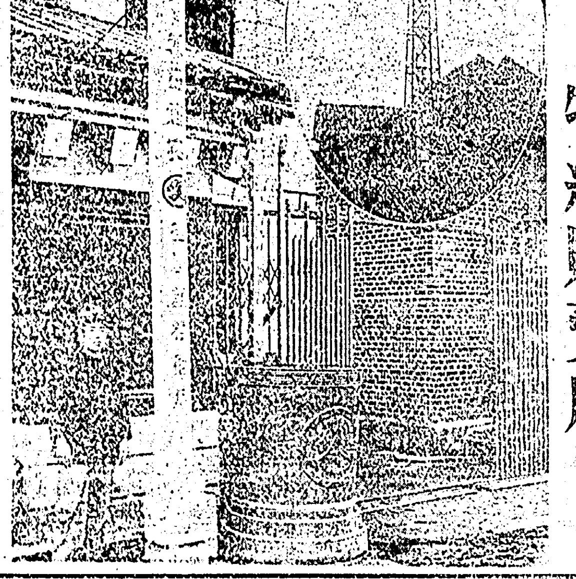
植田町 片岡醫院 院長慈惠醫學士 片岡章 電話一〇七番

平町田町 高久病院 電話五三一番

磐城 溫泉旅館 松柏館 電話長五番 湯本

磐城セメント特約販賣店

サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價



和洋銅鐵金物 久
平町五丁目 釜屋商店
電話九番 二三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
◈良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷は久の生命なり

日本石油株式會社特約店
油問屋 關內油店 平町二丁目 關內正一
電話長十六番 八三九番
支店 郡山市驛前 電話三二八番
支店油槽所 茨城縣多賀郡關本驛前 電話平潟三七番

不思議な滋强靈液
まむしのエキス
本酒を用ひて適切に靈能の分る人々
養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く强力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に
結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉强又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▼大瓶 五八〇 五入 金貳圓
▼中瓶 四〇〇 五入 金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います
平町五丁目 代理店 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎

書籍文房具類の御用は
平町貳丁目 清水屋書店に 電話百參拾壹番

本紙發送先芳名（一）

昭和四年一月末現在

活字の都合上敬語略

▼納本の部
一、平町 平檢事局
一、福島市 福島地方裁判所檢事局
一、東京內務省警保局圖書課「二通」
一、平町 平郵便局
一、仙臺市仙臺遞信局 監督課
一、福島市福島縣廳警察部特別高等警察課
一、平町 平警察署特高係
▼泉村
田子 福松 上遠野新重郎
中村 立身 佐藤 信昂
松井 清水 小林 減次
三戶源太郎 上遠野大藏
志賀晴五郎
▼渡邊村
役塲村長 小學校長
高木 吉男 高木 善枝
▼山田村
小學校長 安島 重三郎
下山田嘉市 秋山藏之助
▼石住村
役塲村長 小學校長
▼荷路夫村
小學校長 役塲村長
▼川部村
役塲村長 小學校長
兒玉 萬平 小野 魯平
芳賀酒造店
▼上遠野村
大野 元 鈴木龜之助
小澤 貞久 役塲村長
▼田人村
組合役塲村長 小學校長
▼貝泊村
小學校長 役塲村長
▼入遠野村
役塲村長 樋口幸右エ門
大平喜一郎
▼錦村
鷲 三郎 小學校長
江栗 大平 又一
大島 正木 信雄
金成 通 高木武一郎
助川 保
▼飯野村
南白土 直井藤太郎
伊藤淺之助 永山 篤平
山崎吉平
下荒川 何部 勝治
上荒川 佐藤 充康
渡邊 博 須藤 榮
▼夏井村
青木清太郎 鈴木 積善
専稱寺住職 根本 莊梢
▼高久村
木崎 豊 矢吹 清貞
入和田運吉 箱崎 淺吉
藥谷 明 本馬 武
志賀 久作 大谷 喜作
藥谷久太郎 山部 隆雄
▼鹿島村
佐藤 慶藏 志賀 政敏
江尻寅治郎 三島五一郎
吉田 正義 黒木 美郎
長濟 東 荒川 忠治
新妻 賛雄 江尻泰次郎
鶴沼 末吉 佐藤萬太郎
小學校 振旗 弘
荒川 源重 門馬要次郎
佐藤 米治 大瀧 榮
新妻 一 箱崎伊之吉
黒木房琴 江尻 仲
▼豊間村
大敷網事務所 志賀村長
鹽屋崎燈臺
回春園內 川井 重之
▼玉川村
岩出 村上龜之助
岩出 山野邊武
岩出 鈴木 仙助
板本 平太 永山 常治
箱崎瀧三郎 白土 正吉
渡邊 大 役塲吏員一同
小學校教職員一同
渡邊 渡 齋藤 晃
長瀬龍之助 佐竹 硯朋
丹野鷲之助 小松 德松
高萩 儀平 鈴木常次郎
永井 業守 小濱熊治郎
長瀬 主水 丹野 喜市
丹野 寅吉 丹野七太郎
妻 寅五郎 山野邊五郎
鈴木 鉦良 西丸
齋藤 春吉 西丸馬之助
佐藤 久 橋本 雄吉
柳井竹治郎 橋本佐名壽
宮內熊次郎 永山太次郎
渡邊 守彌 小泉民次郎
水崎 亮繁 野崎 藤太郎
駒木根忠三 箱崎 市松
野崎喜代松 若松新之助
永井 億彌
▼內郷村
みまや 中里商店
綴坑 涌井 保
白水 足立ツナ
宮 高萩桂次郎
藤棚 永井茂次郎
黒木ハル 宮田所恒夫
藤棚 柏屋呉服店
驛前 常陸館
不動澤浪花炭礦 佐藤留造
不動澤朝鮮炭礦 戶部光衛
川島トミ
白水 大越卯之助
白水 坂田 順治
佐藤 三平
不動澤 湯川 代吉
不動澤 岡 子之吉
不動澤 杉山今朝吉
宮 藥谷 秀英
白水 中根敬太郎
不動澤 井坂市之助
同石橋金太郎 同大友政夫
同田所橋造 同花塚勝次
中出□所 磐城炭礦社
小久保起 大勝□治
不動澤 高原 重吉
同 八島 義一
四家 又一 山崎佐一郎
鈴木 平 中川冲之助
塙 操
▼磐崎村
小野田炭礦 長渡邊藤吉
第一小學校 江尻 融
小野田炭礦 橋本 本治
藤原 飯塚 精輔
藤原 松本材木店
藤原 小島興行部
酒井 芳夫 大田原憲太郎
若松惣太郎 鐵上 寅吉
織內 孝平 伊藤 兵福
大平 啓助 箱崎 鶴吉
金成新次郎
長孫 鈴木 道治
三井炭礦飯塲 佐藤清三郎
白鳥鍋泉 吉田屋
同 春木屋
稲沼久太郎 四家 秀行
柴田 正則 佐竹 智明
小泉 恭平 國井 縫治
杉山 勇馬
小野田炭礦 齋藤 榮光
同鈴木辰之助 同渡邊 豊
酒井 秀吉
金成玄之松
姥ノ湯 御代 德次
西鄕 磯上 龜中
▼好間村
小田炭礦 菅野 飯塲
町田 神 兼次郎
鈴木 精平
長橋 長壽
小田炭礦役塲 金成 淺治
小山炭礦々業所
叶多 清 菊地 寅雄
木田 顯平 小田 吉次
五十嵐 清
▼赤井村
吉田 佐內 高階一郎
市 喜三郎 閼伽井嶽住職
川瀬 幸治 谷口 與吉
根本 忠松 筒井 條
渡戶 小學校內 鈴木 茂作
▼永戶村
小學校長 役塲村長
谷津 保見 鈴木富太郎
合津 音一
▼箕輪村
小學校長 高萩コウ
役塲村長
▼澤渡村
菅野 源重 役塲村長
小學校長
▼三坂村
小學校長 役塲村長
▼草野村
鈴木 武夫 江尻七太郎
佐藤 榮 芳賀辨之助
江尻 傳 佐藤忠三郎
松崎 義隆 吉田 壽義
草野小學校 門馬寅之助
猪狩金之助 新妻孝太郎
新妻 常吉 麻原好五郎
高岡 忠 豊田酉太郎
阿部 勝造 大平 源八
鈴木 長壽 高岡唯一郎
新妻 恭孝 鈴木喜三郎
芳賀 義一 芳賀 正義
▼大浦村
役塲內 鈴木 長壽
木村 守江 新妻伊之助
高崎 [illegible] 鈴木 定輔
鈴木常之助 芳賀保三郎
根本 權次
▼大野村
第二小學校荒川 猪方熊三
中島 草野和之助
吉田 盛次
戶田 佐藤 榮
會田秀次郎
玉山 草野 應次
小學校長
▼神谷村
中神谷 大塲 仙吉
松本 喜作 農事試驗塲
神谷小學校 澤田 榮
▼上小川村
役塲村長 小學校長
▼下小川村
役塲村 赤井第二小學校
▼平窪村 松本 德一
▼川前村
中村 豊 永山龜太郎
小學校長 永山 德一
佐藤 三郎 安藤木炭店
▼勿來町
勿來町關田 鳥居 斌
勿來町滓田 赤津 兼吉
齋藤 茂男 安島 久
赤津 兵衛 皆川 三六
大內 勇 横山 太一
小松 作次郎
▼植田町
小野 寅吉 中山組出張所
植田町月山下セメント瓦工
塲 赤津 島治
遠藤 儀一 磐東銀行
植田警察署
一田町常磐銀行內 高木一
長谷川安一 太田 稻城
植田町小學校 渡邊綱次郎
同 齋藤 弘
山崎 登 藤田淺之助
入平 喜市 大平 千秋
氣會社 助川 新三
山口屋近之助
常磐業社 小野 庄一
古川 傳一 馬上 守一
常磐銀行植山出張所
山野 文雄 山田屋別館
森合 芳男 片岡 章
綠川 秀男 小野 保
齋藤 直一 坂本龜太郎
植田裁縫女學校
布施 宗
驛前 浮世 支店
新油屋 鷲 清昇
鶴ノ家 菊田屋旅館
植田運送會社 秋山材木店
渡邊德之助 龜田屋呉服店
松本藥店 越後家
小學校長
▼江名町
永崎 亮晨 吉田 厚
吉田 正雄 遠藤 俊郎
神白 鍍泉
江名、小學校 鈴木 佐忠
江名小學校 遠藤菊次郎
山口屋旅館
中ノ作 吉田長兵衛
港屋藥店 右色 彌
▼小名濱町
小學校 高木 長平
鈴木 榮 小濱長太郎
小野 晉平
村上呉服店 村上淨代二
小島彌太郎 吉田屋旅館
小名濱町登記所 佐々木善作
角山 康哉 飯塚榮一郎
小濱幼稚園
東洋捕鯨會社 大野 眞宏
白井 三郎 立花 雄七
松 德次郎 鈴木富太郎
福島縣水產試驗場
高木 保 久保田醫院
中村醫院 小學校長
▼四倉町
新妻 盛 菅波富太郎
門馬 公平 和泉屋
青木 清勝 四倉登記所
若松 磯吉 宮內 幸平
大和田安太郎 長谷川西次郎
長谷川平八 吉田 勝三
四倉銀行
四倉銀行內 吉田保之助
門馬倉次郎 佐藤齒科醫院
西川龜之助 長谷川好之助
二階堂 寛 酒井 忠太
菅波千之助 小松 學佐
中野 捨與 鐵屋商店
四倉新報社 小林 庫二
草野亥子治
▼湯本町
湯ノ入山炭礦 菅原 道
比佐 源造 鈴木道太郎
若松 條助 泉屋洋服店
箱崎 義一 若松忠兵衛
上川 才松 比佐 榮一
鯨岡 潔 鈴木 庄次
篠崎善三郎 吉田 宗雄
淸見助一郎 三瓶 建吉
矢內自轉車店 圓谷洋酒店
四ツ屋酒店 若松 修一
柳田 義夫 村上 文平
森田寅之助 比佐 金太
渡邊 長作 赤木作次郎
小野勇次郎 蔦 宗
川野湧良吉 山本建次郎
北佐 賢司 入山採炭會
石川 德壽 比佐 昌平
鈴木 康平
湯本小學校內 山崎 三良
同 岡部 政一
山野邊庄七
湯本町入山採炭會社
大越 新
龍倉醫院 高木芳太郎
西丸新聞店 鈴木 清晋
森合 文雄 櫛田 輝雄
山本 春吉 鈴木金三郎
鈴木 長太郎 佐波古直元
鯨岡 賢司 矢吹材木店
木村德三郎 新田目春松
馬目 隆義 若松利惣次
石川 兼次 洲川 愛
井坂千代松 白石 義雄
楢 正隆 金子 恭三
白石 熊治 菅波駒之助
淨法寺文哉 馬目 政治
後藤利吉郎 鯨岡久一郎
渡邊 渡 昭和館
勇屋 古滝
仲里顯太郎 吹ノ湯
片岡醫院 吉田 恭平
田丸屋酒店 大貫 經次
松繁 正一 佐藤 貫
若松 幸造 大平菊次郎
磐城炭礦社宅 箱崎 清一
生田目喜清 金成 榮二
高橋由兵衛 小野精米所
比佐 芳 岩瀬藥舗
前川 三省 大瀧館
常陸館 佐の家
寶屋 菅野雜貨店
小泉 菊彌 備中屋
比佐精米所 先崎 集惠
二本松電氣社
石川 八郎 佐藤 德平
根本 正行
▼双葉郡
双葉郡廣野村小學校 根本 一良
廣野村 木田 茂平
廣野村櫻田 根本酒選店
廣野村驛前 渡邊チヨ子
廣野村役塲內 大越 三吉
廣野村折木 佐藤 本吉
鶴屋鑛泉旅館
久野濱町 堀部 留造
新山町 半谷 松湖
新山町小學校內 渡邊 壽重
長塚村長塚女學校 岩東マス
浪江町 大塲 次郎
浪江町 柳沼 德寶
浪江町營林署 大淵 新吉
熊町 吉岡 善一
大久村 石川 倉吉
大久村 柳井 義一
大久村淨土寺 山崎 長譽
木戶村 松本 傳衛
上岡村 遠藤 直衛
小高 鈴木末次郎
富岡町 相馬屋酒店
富岡町 和田齒科醫院
富岡町 大原 勇
富岡町 新妻 義信
富岡町 早川 清久
▼相馬郡
中村町相馬女學校 鈴木 久義
中村町相馬中學校 荒 七三郎
中村町停車塲通 齋藤 譯
原ノ町縣立相馬農蠶學校 午來不二男
原ノ町驛前 松永篤次郎
宮城縣築館町中學校 片寄 政直
岩手縣花卷稅務署 鈴木 義達
秋田縣平鹿郡朝倉村
仙臺下中學校 高木 稻水
仙臺市東九磐町三 中村 節夫
仙臺市北一番町一四五
川藤方 加藤 利貞
▼北海道
北海道八雲中學校 平賀仙三郎
北海道空知郡岩見澤 佐々木馨吾
水戶市久保町 北條猛次郎
水戶市上市梅香二六一 高野 直孝
水戶市上市向井町三丁目 吉田清左エ門
▼茨城縣
多賀郡南中鄕村
大倉鑛業無煙炭鑛 三枝 弘
多賀郡日高村 樫村 慶
多賀郡關南村 神永 定男
石川郡石川町石川中學校 西牧 盛雄
安達郡本宮町 篠 山麗
本宮小學校 關本驛前
茨城縣多賀郡 關內油店支店
土浦町中學校 遠藤勇三郎
土浦町築地町 荒木 三郎
會津若松市東六日町二二
秋本タマ方 大越 久
會津若松市博勞町六八 太田 捷吉
白河町中町七三 加藤 泰治
田村郡三春町田村中學校 若松 喜好
相馬郡上吉村字小山田 渡邊 重雄
埼玉縣浦和町鹿島臺二〇一〇 山崎 一郎
埼玉縣熊谷町筑波町一町目 藤村 千壽
仙臺市柳町三三 高玉 德彌
▼郡山市
東部電力支店 武田 精一
驛前 關內油店郡山支店
郡山淑德女學校 千葉 正義
郡山市西館西 箱崎 貞吉
本宮銀行 山口屋酒造店
太田病院 橋本萬右衛門
壽泉堂病院
安積女學校內 根本祐太郎
波木井シゲ
山形縣南置賜郡山上村關根
須藤 榮吉
岩代熱海溫泉 一力ホテル
▼福島市
縣廳地方課 安藤 蓁
縣廳社會課 吉田 庄太
信夫農民學校 近藤節太郎
縣廳會計課 丹野才次郎
縣度量衡檢定所 增山 義夫
大官地一二 菌部 金彌
曾根田町 濱島 操
福島民報社 會田 修
信夫郡渡利村 門馬 貞藏
福島縣廳學務課 千葉 右近
商業學校 鈴木 清八
寺澤 元良
田子 建吉
福島驛 鵜沼龍太郎
大原 一
福島縣廳學務課 齋藤 要
柳町前九 新妻 一郎
荒賜町九番地 齋北 洋
仙臺騎兵第二聯隊第一中隊
第一班 諸橋 安彥
福島縣坂下町警察署 青木 壽
二本松町安達中學校 松本午次郎
安達郡二本松町安達中學校 岡山朝五郎
安達郡二本松町裏町 紺野 良平
二本松町實科女學校 新妻 熊男
保原町警察署長 近藤 千歌
二本松町安達中學校內 御代 末鶴
千葉縣千葉醫科大學 高柳 博明
新潟縣新發田中學校 小野 大浩
大坂市東淡路町二丁目
近藤利兵衛商店內 阿部 幸太
大坂市西區靭下通リ二ノ三二 佐川 潔
東成區野江町三丁目九四 永山 定武
神戶市外西灘村味泥鳥海莊 綠川 昇
岐阜市外加納町 河上 和一
岐阜市第二中學校
奈良市芝辻町二九 竹村 敏智
長崎市濱和町一二五 淺田 一
長崎醫科大學
山口縣小郡町
小郡高等女學校 北條 重直
神戶市中山手三商船學校
々友會神戶會館 柳內 秀吉
▼東京府下
荏原郡戶越一〇三 榊見 久茂
荏原町戶越吉 西丸 重龜
大崎町上大崎八〇四 阿部 貞助
桐ヶ谷三六 鷲 清章
中新井村中七五五 中川 六郎
下澁ノ川町西大原六九二 赤堀 信平
大崎星製藥會社 星 一
西大久保四七 古市榮三郎
西巢鴨宮仲二一一七
須藤力 草野又次郎
上大崎鐵道官舍五號 長瀬元治郎
大崎町星製藥會社 松本 昌光
品川町南品川宿四一三 鈴木 英夫
田端四〇五大東製藥所 新妻 喜男
高圓寺九〇八 佐藤 縉
▼東京市
日本橋區馬喰四ノ二
ランラン香油 生武 陽三
小石川區大塚坂下町
小石川區第六天町四八 嘉納治五郎
村上 邦夫
東京慈惠醫大 谷口 孝雄
有樂町衛生試驗所內 酒井 菊雄
牛込區原町三六一 四條七十郎
牛込區新小石川町二ノ八 比佐 昌平
長生館內 小林 宜閑
芝區三田綱町一 石城造士會
小石川區原町一五 赤津誠內
牛込區通寺町四〇
日本橋區室町一ノ二 高知尾誠吉
麻布區富士見町三六 荒川 精一
京橋區北槇町一八 藤本ビルブローカー銀行
東京支店 佐藤 一郎
橫濱市淺間町隱谷戶九〇〇 應崎 正見
橫濱市中區常磐町五丁目
五十八 東洋コンプレッソル株式會社橫濱出張所 大平又太郎
京都市上京區吉田神樂岡町
山上方 新妻 正男
▼朝鮮の部
群山府釜山日報群山支社 北市喜多孝
裡里群山日報支局 宇津木蕉雨
裡里全北商事會社 大木 房男
裡里東拓內 金子 龍男
群山府大井洞上 妻 キク
群山府全州通上 田 勝
群山府榮町六五ノ二 長島 豊三
京城府漢江通二 中野陸軍官舍 正太
群山府 引地寛治郎
全北長水邑內 湯原 亮夫
▼支那の部
山東省博山 博東鑛業公司 菅波 豊
上海東亞同文書院 坂本 義孝
青島市外四方庄 內外綿會社 柳內 穎一
●平町の部は次號に讓る

右芳名は十二月中發送々簿盜難紛失仕り新たに作成致したるものにて從來送附されし人にして若し配達なきは御一報被下度候

平新報社

柔道昇段者並びに入段者

岡田氏四段に
樋口氏二段に

磐城柔道有段者會員の左の人々今回昇段された。◆四段に岡田朝五郎『安達中學校教諭』◆二段に樋口朝之助『平警察署』

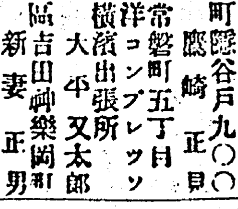
尚は左の人々初段に列せられた。

小金森勇之助『中村町齋藤道場』新關文彌『相中』吉田愛司、坂本一郎、志賀傳吉、渡邊金一郎『以上磐中』蛭田四郎『磐中卒』高橋一郎、高野廣榮、今野忠三『以上双中』宮崎一郎『相馬農蠶』志賀道『相農卒』久米本裕『相中卒』以上十三名

磐城劍道會

發會式は 本月十七日に內定

磐中劍柔道寒稽古納會大會を去る二十七日擧行後午後二時より磐城劍道會の役員會を開き發會式期日其他につき協議をなし、發會式は一月十七日平町に於て擧ぐる事に內定した。



時、新年のツカレと舊年末を控えての色街はどうか、紅筆への投書や直談とマッタラヂオの聞き込み中新しく奇しきを紹介して見る……そこに變轉極りなく、醜くき人間共のあさましさを暗から明みへと展開して居るその節々にて通の御人は判讀すべしである◆久本からは小夜子と名乘り佐保式の妓が出た、芳紀正に二九からぬ十八歲。◆倚家よりは筆助として年增愛助の姉と御座る。◆鶴千代姐さん早く一本になりたいのか去る十七夜五町目のヨーさんと火鉢を間に半館にて夫婦氣取りで御シャれはなか/\はなせも御油斷ならぬ。◆いつも夜更けさて尼忠の闇暗路地で猫いやさ一寸助を待つ男はどこのコックに似て居るとの事。◆かすみの小豆、は味が良いとの事で新田町妓に買れる事〇〇アッキ五ッ〇〇二ッと黒板代用のトビラに安さんの備忘錄これも不景氣の相か、時に金時の小豆をめ食ふ事一度に三盃だ但しこの妓は現金支拂、小豆小豆と申しても米京の小豆にあらず小豆はアッキだテ。◆叶家の三代治片や二人男さの三ッ巴と入り亂れての鞘の爭闘悲喜劇は近來平色街の觀物で小玉女將の不可意なさはヨッ目にも氣の毒のあまり。◆三好家の松太郎姐さん曰く廢業したんでないから皆樣御遠慮なく呼んで下さいとこの姐さん石川の女中さんと間違ひらるゝ程チミな格構で時折ハイカラに結髮する事がスキらしい。◆品澤のまり子あたり風の夜有聲座からの歸りがけ玉屋の看板が路傍にほうり出されて居るのを見るやあの手でとりあげ後戾りして玉屋の軒下に安置して居つたつけ、なか/\感心ごこのうちのもかくすると其筋から表彰される事であらう、障害物取除けの意味で◆去る夜行に竹の家の磯壽と仲家の市太郎の兩妓綴驛から乘り込みさし向ひで例のカナギリ聲で、ハシヤグはく\二等室から眺めた〇〇さんあれや舞子かい舞子は半玉の事まさか半玉程ウブであるまいそうするとアバズレかな。◆福淸でツバメつて居る但し例のへベレケは植田新油家で〆子と名乘のツバメでなく二代目の妓◆例のぽんこたる千賀子は仙臺に嫁ついた何!、仙臺じあるかいその屋だよ姉は三々九度の盃をして本妻だが妹の小高は妾やつぱり遲くとも姉の方が勝ちといふものサと頗る熱心に說明する御人は誰かい。◆湯本蔦家のぽんた入山病院で割腹の手術をうけあの世へはさめの良いものではなからうその腹を合せた〇〇連は寢醒テ。◆平は六十四錢を五錢に湯本、植田ともに五十錢を六十錢に玉上げ米は安いのに！この頃の物價は米がどうしても中心になれぬと見ゐる物價が安くて月給が上る許りかサラリの色街入りは大したものである、〇學校の〇頭の遊廓で朝歸りはエラい勇敢なものこんな不倫漢に大事な女子の教育をうける生徒の將來が思ひ遣らるテ。◆湯本蔦家から若千代といふ名の如く若い妓が出たいぽんたの後任には若過ぎはせぬかな……

社告

長谷川正夫

右之者今ほ本社員の如く見做す向これあるも右は不都合の所爲あり昨年拾月二十七日限り解職せるものにて誤解なき樣御願ひ申し候

昭和四年二月

平新報社

社員募集

意志强固にして向上心に富む新聞事業に興味を有する青年社員二名を募集す希望者は來談ありたし

平新報社

平鍛冶町
吉田鐵工場
吉田伴吉
電話二二五番

亀の舊年末
特價品大提供
舊十二月十八日（新一月二十八日）より
一圓均一 遠洲正紺上等縞 捺染大島絣 瓦斯大島絣
六十錢均一 ニコニコ半天地
尺三錢五厘 上等ナフトール友仙
春向銘仙 春向帶皮 ショール 陳列
此の外格安品 豊富取揃
亀 中野呉服店
平町三丁目 電話六十七番